■原胤昭 社会事業家。キリスト教出版事業で獄中体験、出獄人保護運動に努め、“わが国囚保護事業の父”に。

はらたねあき

ペリー来航・1853＝ 江戸八丁堀で、江戸町奉行の与力の四男に生まれる。

桜田門外変・1860＝ 7歳：

生麦事件・・・1862＝ 9歳：江戸町奉行所与力の原胤保死去直前にの養子となり、家督を相続したが、幼少のため叔父が勤務を代行、

薩長同盟・・・1866＝13歳：母方の原姓と家職を継いで、石川島の入足寄場(無頼・無宿者の授産場)の見回り役を務める。

大政奉還・・・1867＝14歳：南町奉行所与力となったが、

明治維新・・・1868＝15歳：<明治維新>となり、

戊辰戦争終・・・1869＝16歳：東京市政が鎮台府に引き継がれ、市政裁判所勤務。東京府当番所詰となるも、役員減少により解任され、自宅を開放して英学校を開設、のち横浜の高島学校に入学、

廃藩置県・・・1871＝18歳：

学問のすすめ1872＝19歳：東京府士族となる。築地大学校で英学を学ぶうち、

明治6年政変・1873＝20歳：

佐賀の乱・・・1874＝21歳：宣教師カロザーズから洗礼をうけキリスト教に入信、銀座独立教会の創立会員となった。銀座三丁目に{十字屋書店}を創業して、週刊誌{東京新報}を発刊、キリスト教書(聖書・賛美歌集など)の出版販売を始め、三つの反乱・1876＝23歳：京橋にキリスト教主義の原女学校(女子学院の前身)を創立したが、財政困難で間もなく閉校。

西南戦争・・・1877＝24歳：

「猶太(ユダヤ)国地名人名辞典」。

・・・1880＝27歳：

明治14年政変1881＝28歳：

新体詩抄・・・1882＝29歳：<福島事件>に際し、その指導者であった県会議長河野広中らを賞揚する錦絵を出版したため、

岩倉具視没・1883＝30歳：*新聞出版取締法により入獄。囚人に対する非人道的な取扱いを見て、保護事業を志し、内務省へ「監獄意見書」を提出するとともに、自宅で出獄者の収容・保護を開始、

秩父事件・・・1884＝31歳：

*新設の兵庫仮留監の日本最初のキリスト者教諭師となって、神戸に赴任する。

日本では初めて臨房教諭や個人教諭を導入、顧問医のペリとも親しくなり、共に監獄制度改良に貢献。

初の対等条約1888＝35歳：北海道集治監送りの囚人を引率して釧路に赴き、人望からそのまま留まることになって、妻子も呼んだ。

帝国憲法発布1889＝36歳：

過酷な硫黄鉱山労働を見て、その改善を建言して実現するとともに、出獄者の農業活動のため、協同組合たる保護会の設置と土地の払い下げも要望、

大本教・・・1892＝39歳：樺戸へ転任すると、そこでも同様の保護会設置を要望、

郡司千島探検1893＝40歳：

日清戦争始・1894＝41歳：ようやく釧路の保護会が認可される。

日清戦争終・1895＝42歳：

辞職後、樺戸の保護会がようやく認可される。

八幡製鉄始・1897＝44歳：

子規句歌革新1898＝45歳：帰京し、{毎日新聞社事務長}をしていたが、英照皇太后崩御で大量の恩赦が出ると、*神田教会を譲り受けて、出獄人保護所(原寄宿舎)(のち{東京保護所}と改称)を自宅に開設、行政がまだ着手していなかったこの分野の先駆者となった。以後、その保護に尽くした。

明治・大正期の代表的キリスト教信徒として、キリスト教精神によって家族の一員として接しつつ保護した延人数は約1万人に達し、各事例をカードに記入して整理するなど、近代的保護方式を確立した。

日露戦争終・1905＝52歳：

韓国反日暴動1907＝54歳：

明治天皇没・1912＝59歳：

大正政変・・・1913＝60歳：「出獄人保護」。

民本主義・・・1916＝63歳：

原敬首相暗殺1921＝68歳：

水平社結成・1922＝69歳：{七十路会}を組織し、

初期のキリスト教信徒の親睦を図るとともに、当時の実状を記録している。

治安維持法・1925＝72歳：

満州事変・・・1931＝78歳：

帝人疑獄事件1934＝81歳：

・・・1942＝89歳：東京で_没した。

平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」,